

授 業 科 目 名	生物		
担 当 教 員 名	安田 元昭	歯科医師歴	33年 実務経験
開 講 時 期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

生物学の知識は他の基礎科目を理解するうえで必須の知識である。本講義では、高校卒業レベルの生物学の内容を理解習得することを目標とする。特に細胞の基本構造および転写・翻訳などの分子生物学的内容を重視していく。

【授業の進め方】

毎回、講義終了後に演習問題に取り組み、知識の定着を確認する。

【使用教本・教材】

プリント および 最新歯科衛生士教本 生物学

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

講義は、各授業で配布するプリントやスライドに即して行い、試験範囲もこれらの中から出題します。歯科衛生士教本は、副読本として使用する程度なので、授業の内容をしっかりとノートにとることを心がけてください。

年間授業計画

科目名 生物学

回数	履修主題	履修内容
1	細胞とは(1)	細胞の観察(実習)
2	細胞とは(2)	細胞の基本構造
3	細胞とは(3)	細胞をつくる物質～タンパク質の姿
4	細胞とは(4)	酵素のはたらき
5	細胞とは(5)	細胞呼吸
6	細胞の一生	細胞分裂、細胞周期、細胞の種類
7	遺伝子発現(1)	DNAの構造(実習)
8	遺伝子発現(2)	複製
9	遺伝子発現(3)	転写
10	遺伝子発現(4)	翻訳
11	生物の分類	真核生物と原核生物
12	発生	無性生殖と有性生殖
13	分化	細胞分化
14	遺伝	優性遺伝・劣性遺伝
15	再生医学	ビデオ

授 業 科 目 名	化学		
担 当 教 員 名	南川 元	歯科医師歴 12年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

《目的》

歯科衛生士は歯科医療の現場で種々の薬物や歯科材料などを取り扱うことから、物質の性質、構造、変化に関する化学の基礎知識が不可欠である。授業では、広い化学の領域のうちでも歯科医学に関連した項目を中心に学び、日常の歯科臨床において取り扱う物質に関する基礎知識を身につけることを目的とする。

《目標》

1. 物質の基本的な構造について説明できる。
2. 気体と液体の種類とそれらの基本的な性質について説明できる。
3. 化学反応の原理について説明できる。
4. 有機化合物の基本的な構造と性質について説明できる。
5. 生体を構成する物質について説明できる。

【授業の進め方】

毎回の小テストを行います。

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 化学

【評価方法】

定期試験の得点を8割、小テストを2割とし、合計で6割以上を合格とする。
点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

教科書を事前に読んでくること。

年間授業計画

科目名 化学

回数	履修主題	履修内容
1	1章 物質とは何だろう	物質の分類、物質の構造
2	1章 物質とは何だろう	原子の電子配置、元素の周期律、物質量、化学結合
3	2章 気体について知ろう	気体のルール
4	2章 気体について知ろう	気体を使う
5	3章 物質が水に溶けるとは	水溶液の濃さの表し方、希薄水溶液の示す不思議な性質
6	3章 物質が水に溶けるとは	身の回りにはコロイドがいっぱい、酸とアルカリの水溶液
7	4章 酸化とは、還元とは	酸化と還元
8	4章 酸化とは、還元とは	金属のイオン化傾向
9	5章 化学反応では	化学反応の速さを決めているもの
10	5章 化学反応では	化学平衡って何だろう
11	6章 有機化合物とは何だろう	有機化合物の成り立ち、有機化合物に名前をつける
12	6章 有機化合物とは何だろう	同じ原子から違った構造が、有機化合物の反応
13	6章 有機化合物とは何だろう	代表的な化合物と性質、高分子化合物
14	7章 ヒトをつくっているもの	水はいたるところに存在する、ヒトを形づくる元素、糖質
15	7章 ヒトをつくっているもの	アミノ酸とタンパク質、脂質、核酸と核酸関連物質

授 業 科 目 名	国語		
担 当 教 員 名	篠原 弘	高等学校教諭歴	43年
開 講 時 期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

1. 専門学校の学生として学習意欲の向上と授業の成果を挙げるため、その基礎学力としての言語活動の充実を目指す。
2. 国語教育の学習を通して、人間性豊かな専門職としての自覚を培う為、思考力。判断力。表現力の充実をめざす。

【授業の進め方】

語彙、文法及び文章の論理構造を柱に据え講義と演習の授業展開を進める実践的な問題解決型の形態とする。

【使用教本・教材】

国語科としての基礎学習の確実な定着を目指した教材を中心に据えた自作編集教材の作成とする。

【評価方法】

授業への関心、意欲を重視するとともに、小単元による試験・作品の提出及び総括試験を持って点数による絶対的評価する。

【授業心得】

授業のめあてを明確にし課題意識を高めるとともに個人差に応じた指導を重視し、個の学力の定着を目指す。

年間授業計画

科目名 国語

回数	履修主題	履修内容
1	言語能力の習得 I	常用漢字の読みと書きの完全習得 (1)
	” II	” (2)
2	” III	常用漢字の書き取りの完全習得
	” IV	常用漢字の送り仮名の完全習得
3	” V	敬語・四文字熟語の習得
	文法の習得 I	文の成分・文の組み立ての習得
4	” II	文の組み立ての習得
	読解力の習得 I	全国学力調査問題への取り組み (1)
5	” II	” (2)
	” III	説明文による読解力の習得
6	表現力の習得 I	詩の作品による表現力の習得
	” II	小説文による表現力の習得
7	読解力の習得 IV	文法の力による読解力の向上
	” V	学習問題の読解力の向上
8	表現力・書く力の習得	進級への希望を表現する作文への取り組み

授 業 科 目 名	心理学		
担 当 教 員 名	槇 洋一 先生	心理学修士歴	21年
開 講 時 期	1年生		
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

本科目では、心理学の基礎的な内容を幅広く学ぶことを目的とする。具体的には、心理学の主要なトピックである知覚、記憶、動機づけ、感情、パーソナリティ、対人関係、ストレスなどの基礎的内容を紹介する。講義では、トピックに関する実験や調査のデモンストレーションを可能な限り実施し、受講生が体験的に理解できるようにするので、積極的に参加することを望む。これに加えて、医療場面に役立つと思われる心理学の応用的内容についても紹介する。

到達目標:

- 1、心理学の基礎的内容に関する知識を習得する。
- 2、心理学の基礎的内容を発展的に捉え、日常場面(特に医療場面)での応用可能性を具体的に想像することができる。

【授業の進め方】

授業前: 毎授業プリント配布するので、A4のファイルを用意してください(ノートはいりません)。予習は必要ありません。

授業中: 配布するプリントに指示する内容等を書き込んでいってください。講義内容に関するデモンストレーションも行います。遅刻しないようにしてください。

授業後: 授業内容に関する穴埋め問題を出題するので、復習してください。(期末テストは、この問題から出題されます)

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 心理学

【評価方法】

期末テスト: 全15回の授業内容に関するテスト …… 70%

出席: 授業の感想、質問を記述する(毎授業)…… 30% を統合した点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

授業を”勉強”と捉えるのではなく、その内容を自分ならどのように活かすのかを考えると、いつの間にか覚えています。授業を楽しもうという気持ちで臨んでください。

年間授業計画

科目名 心理学

回数	履修主題	履修内容
1	ガイダンス 心理学とはなにか	心理学とは何か(定義, 誤解を解く, 概説) 教本:15章
2	感覚・知覚	ヒトは外界をどのように捉えているか (錯視のデモンストレーション) 教本:1章
3	記憶1	記憶過程に関する代表的モデルの紹介 (短期記憶に関する実験) 教本:2章②
4	記憶2	記憶の分類 (視覚的な記憶に関する実験) 教本:2章②③
5	思考	トップダウンとボトムアップ (スキーマ, 推論に関するデモンストレーション) 教本:7章
6	感情	感情のメカニズム 教本:4章①
7	動機付け・葛藤・学習	動機付け, 葛藤 学習, 条件付け 教本:3章, 4章②, 2章①
8	パーソナリティ1	知能に関する理論 (次回授業の準備:性格検査) 教本:6章
9	パーソナリティ2	性格に関する理論 性格の測定法 教本:5章
10	発達1	発達段階と発達課題 乳児期の発達 (乳児期に関するビデオ) 教本:8章
11	発達2	認知機能の発達 乳児期以降の発達 教本:8章, 9章
12	社会心理学	対人認知, 印象形成 態度, 同調・服従 教本:10章, 11章
13	ストレス	ストレスの定義, ストレスへの対処(コーピング) (ストレスに関する質問紙を実施する) 教本:12章①, 4章③
14	心理臨床	精神疾患・心理的問題 心理療法 教本:12章②③
15	カウンセリング 全体のまとめ	医療場面への応用 教本:13章, 14章

授 業 科 目 名	解剖学・組織発生学		
担 当 教 員 名	入江 史子	歯科医師歴 28年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

- ・人体の構造や名称を理解し、さらに頭頸部に関わる骨・筋・脈管・神経の器官系に精通すること。
- ・人体の構造は肉眼のみならず、顕微解剖学的構造も知る必要がある。
特に上皮・支持組織の構造を理解すること。
- ・人体の組織や器官は1つの受精卵から分化して形成される。
細胞の分化と成熟過程、分化由来を理解すること。

【授業の進め方】

教科書を原則に、パワーポイントを用いたスライドと板書を学生にはノートに記入してもらう。
毎回の講義終了時に復習のために課題を出し、次回の講義時に回収する。

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 『解剖学・組織発生学・生理学』

【評価方法】

前期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

授業後の復習を心がけること

年間授業計画

科目名 解剖学・組織発生学

回数	履修主題	履修内容
1	総論	人体の区分、細胞・組織の構造、器官系の種類
2	骨格系1	骨の構造、形態、結合様式、全身の骨の名称
3	骨格系2	全身の骨の名称(頭を中心に)
4	筋系1	筋の構造、形状、起始と停止、全身の筋の名称
5	筋系2	全身の筋の名称(頭を中心に)
6	消化器系1	消化管の構造と働き(口腔～肛門)
7	消化器系2、呼吸器系1	肝臓、膵臓の構造と働き、鼻腔の構造、副鼻腔
8	呼吸器系2、泌尿器系	喉頭～肺までの構造と働き、腎臓の構造、尿路
9	生殖器系、内分泌系	男女の生殖器と外陰部の構造、ホルモンの名称
10	脈管系1	心臓の構造、刺激伝導系、全身の大動脈
11	脈管系2	頭頸部の動脈、静脈系、リンパ系
12	神経系1	脳と脊髄の構造
13	神経系2	脳神経名と自律神経
14	感覚器、発生学1	受容器の構造、骨・顔面の発生
15	発生学2	口腔・歯の発生

授 業 科 目 名	生理学		
担 当 教 員 名	角 谷 淳	歯 科 医 師 歴	30年 実務経験
開 講 時 期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

医療、医学を学ぼうとする際、最初に学ぶ学問が解剖学と生理学である。生理学とは人体の機能(働き)とその仕組みを明らかにする学問である。今回は授業を全15回に分け、各項目について説明し理解を深めていくことを目標とする。

【授業の進め方】

教科書と配布資料を用いて授業を進める。

【使用教本・教材】

「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」

【評価方法】

授業態度(周囲に迷惑をかけないこと)、毎回行う小テスト、定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

予習・復習を心がけ、わからないことは、授業内にて克服できるよう積極的に授業に参加すること。

年間授業計画

科目名 生理学

回数	履修主題	履修内容
1	細胞	細胞の構造と基本的機能
2	血液①	血液の成分
3	血液②	止血と血液凝固
4	循環①	心臓の働き
5	循環②	血管の機能
6	呼吸	呼吸の機能と調節
7	神経①	神経系の基本的構造
8	神経②	中枢神経と末梢神経
9	筋肉	筋肉の構造と筋収縮
10	感覚	感覚の仕組み
11	消化吸収	消化吸収における各臓器の働き
12	排泄	排泄のしくみと調節
13	内分泌	内分泌器官とホルモン
14	生殖	生殖の機能
15	体温	体温の産生と調節

授 業 科 目 名	生化学		
担 当 教 員 名	藤澤 隆一	歯科医師歴 40年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	2単位	30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

糖質、脂質、タンパク質という三大栄養素を中心に、それらがヒトの体内でどのように代謝されているかを理解する。
口腔生化学の特に、歯を中心とする口腔組織の構成成分、歯の石灰化、唾液の化学組成、歯垢を中心とする歯の堆積物、う蝕と歯周疾患の免疫学について理解する。

【授業の進め方】

教本を基本としての板書、その他プリント・模型などの資料で行う

【使用教本・教材】

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 栄養と代謝

【評価方法】

定期試験、授業態度の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

きちんと話を聞き、重要なポイントなどは、教科書、ノートにまとめること。

年間授業計画

科目名 生化学

回数	履修主題	履修内容
1	細胞の役割	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の構造を理解する 細胞小器官の働きがわかる
2	生体における水	<ul style="list-style-type: none"> 酸と生成する陰イオンがわかる
3	生体構成成分と栄養素	<ul style="list-style-type: none"> 体を構成する成分を栄養素別に分類できる
4	生体における化学反応	<ul style="list-style-type: none"> 生体における消化・吸収・エネルギー代謝がわかる 生体における恒常性の維持がわかる
5	糖の代謝	<ul style="list-style-type: none"> 糖質の代謝がわかる
6	脂質の代謝	<ul style="list-style-type: none"> 脂質の代謝がわかる
7	たんぱく質の代謝	<ul style="list-style-type: none"> たんぱく質の加水分解を理解する たんぱく質の生合成がわかる
8	歯・口の生化学 結合組織	<ul style="list-style-type: none"> 線維性たんぱく質の種類がわかる コラーゲン、エラスチンの違いがわかる
9	歯・口の生化学 歯の構成成分	<ul style="list-style-type: none"> 骨・歯の構成成分がわかる
10	歯・口の生化学 石灰化	<ul style="list-style-type: none"> 歯と骨の石灰化の特徴を理解する
11	歯・口の生化学 石灰化	<ul style="list-style-type: none"> カルシウムとリン酸代謝の調整機構がわかる 脱灰がわかる
12	歯・口の生化学 唾液	<ul style="list-style-type: none"> 唾液の生化学を理解する
13	歯・口の生化学 プラーク	<ul style="list-style-type: none"> プラークの組成、形成、代謝を理解する ペリクルの組成、形成、機能を理解する
14	歯・口の生化学 歯石	<ul style="list-style-type: none"> 歯石の組成と形成を理解する
15	歯・口の生化学 口腔疾患と自然免疫系 口腔疾患と獲得免疫系	<ul style="list-style-type: none"> 歯周組織の自然・獲得免疫を理解する

授 業 科 目 名	歯牙解剖学		
担 当 教 員 名	山岡 孝義	歯科医師歴	18年 実務経験
開 講 時 期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

《目的》

歯が正常に機能するには上下顎の歯が正しく並び、咬みあう必要がある。歯の機能を考える際には、個々の歯の形態や、歯列の形態が非常に大きく影響する。これらに関して理解を深めることは、歯科臨床において必要不可欠である。歯牙解剖学では、歯の形態や、生物学的な意義について学ぶ。

《目標》

1. 歯の生物学的な意義、形態について理解する。
2. 歯の名称や記号を理解する。
3. 歯種について区別がつけられるようになる。

【授業の進め方】

毎回小テストを行い、理解度を確認します。

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

【評価方法】

定期試験の得点を8割、小テストを2割とし、合計で6割以上を合格とした点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

教科書を事前に読んでくること。

授 業 科 目 名	解剖学実習		
担 当 教 員 名	太田 桂吾	歯科技工士歴 39年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位	20時間（10回）

【授業の目的・到達目標】

- 1) 個々の歯牙形態について、同一歯種の上・下顎の形態差、同一顎の歯種内の形態差、同一歯の近・遠心側及び、唇(頬)側・舌(口蓋)側の形態差について理解させる。
- 2) 形態を含めた各歯冠の名称を正確に理解させる。
- 3) 歯型彫刻を通して立体的な歯牙の特徴を捉えさせる。

【授業の進め方】

- 1) スケッチ・・・個々の歯牙を切縁(咬合面)、唇(頬)側、舌(口蓋)側、近・遠心側の5面からその特徴を捉えたスケッチを行なうと共に各部の名称を記入させる。
- 2) 石膏彫刻・・・歯牙の特徴を捉えると共にデザインナイフ等で石膏を削合することで指先の細かな動作と注意力を身につけさせる。

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

【評価方法】

- 1) スケッチ・・・各部の名称が正しく記入されているか。
 - 2) 石膏彫刻・・・歯牙の特徴を捉えているか。
 - 3) 石膏柱・・・気泡がなく、なめらかに作成されているか。
- (1)から(3)を統合し、定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

歯牙の特徴及び各部の名称(咬頭、隆線等)を覚えておくこと。

授 業 科 目 名	解剖学実習			
担 当 教 員 名	笹山 美香	歯科衛生士歴	23年	実務経験
	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	23年	実務経験
	橋本 幸子	歯科衛生士歴	45年	実務経験
開 講 時 期	1年生 前期			
授業形態・単位数・時間	講義・実習		10時間（5回）	

【授業の目的・到達目標】

歯牙彫刻作成のための前準備として、石膏柱を作製する
石膏の取扱いを十分に学習し、的確な混水比・練和・注入方を理解する

【授業の進め方】

石膏柱の作成実習

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論
新歯科衛生士教本 歯科材料の知識と取扱い

【評価方法】

気泡がなく表面が滑らかな石膏柱の作成。
解剖学実習（スケッチ・彫刻）と総合した定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

事前に石膏における、基礎知識を確認してくること。
また、石膏練和の練習をすること。

授 業 科 目 名	微生物学・口腔微生物学		
担 当 教 員 名	柴田 健一郎	歯学博士歴	31年
開 講 時 期	1年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

歯科衛生士業務における予防処置、保健指導をおこなうにあたり、それに関連した病原菌やその性状、発症のメカニズムについて理解する。

【授業の進め方】

教本、パワーポイント、プリント等を使用して授業を行う

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 微生物学

【評価方法】

定期試験、出席状況等を総合した点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

予習、復習は必ずおこなう
授業には積極的に参加し、わからないことがあればそのつど質問する

授 業 科 目 名	病理学・口腔病理学		
担 当 教 員 名	上 浦 庸 司	歯科医師歴	25年 実務経験
開 講 時 期	1年生	後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

病気の原因、経過、転帰について学び、歯科衛生士として患者さんにう蝕・歯周病を主とする口腔内の各種疾患について十分説明できるようになってもらう。
口腔病理を理解するための基礎的な知識として病理概説を理解する。（特に炎症）

【授業の進め方】

基礎的な内容についても、臨床と結びつけて興味を持って学んでもらう。

【使用教本・教材】

教科書: 最新歯科衛生士教本 病理学
その他: 教科書に即した各種スライド(アニメーションやムービー)

【評価方法】

毎回の小テスト、定期試験、授業中の解答を総合した点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

教員として真剣に授業を聞いてもらように最大限工夫をするが、生徒も十分な準備(復習、前日の睡眠)のもと、授業に臨んでいただきたい。

授業科目名	薬理学・歯科薬理学		
担当教員名	南川 元	歯科医師歴 12年	実務経験
開講時期	1年生	後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

歯科衛生士は日常の臨床の場で種々の薬物を取り扱う。それらの薬物を患者に対して有効にかつ安全に、また、衛生士自身にとっても安全に使用するためには、薬物に関して十分な知識を持ち、正しい取り扱い方を身につける必要がある。また、全身疾患を有し他の科で種々の薬物を投与されている患者の来院も多いことから、歯科以外で使用される薬物についても基本的な知識を持つ必要がある。このような目的で薬理学を学ぶ。使用する教科書のⅠ章：総論には、薬理学の中でも是非知っておきたい必須事項が多く含まれているため、1年生では総論に多くの時間をかけて学ぶ。

到達目標

- 1、薬物の分類と薬理作用、副作用について理解し説明できる。
- 2、薬物の取り扱い方と法令について理解し説明できる。
- 3、神経系の全身疾患において投与される薬物について説明できる。

【授業の進め方】

記憶すべき語句を空欄の括弧として教科書から重要な個所を抜粋したプリントと、教科書の各章ごとに歯科衛生士国家試験の既出問題を分類したプリントを配布する。授業は、プリントに抜粋した部分を中心にパワーポイントで示しながら説明して進める。プリントの空欄括弧内に入るべき語句はパワーポイントでは赤字で示されるので、授業を聞きながらプリントの括弧を埋めていく。衛生士国家試験の既出問題は、直接関連する授業時間中に考えさせ、解答と解説を行う。

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学

【評価方法】

出席日数を満たし、定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

薬理学はカタカナの用語が多く、難しく感じるかもしれないが、ある程度学習が進むと必要とされる用語の数は限られていることが理解できると思う。毎回の授業を大切に集中して受けること。また、国家試験の出題問題の範囲もある程度限られているので、既出問題の解答と解説を大事にすること。

授 業 科 目 名	歯科衛生士概論			
担 当 教 員 名	加藤 友一	歯科医師歴	32年	実務経験
	大聖 康洋	歯科医師歴	32年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期		
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）	

【授業の目的・目標】

近年日本国民のライフステージを通じた歯や口腔の健康づくりの重要性が叫ばれるようになり、歯科医療現場のみならず、介護の場においても歯科衛生士の活躍がますます求められるようになってきている。

そうした社会的要請に応えるべく、関連する法律を学び、歯科衛生業務に対する考え方や行動の仕方を理解するとともに、科学的な裏付けをもって仕事をするこの意味を考える。

【授業の進め方】

教本を中心におこなう！

【使用教本・教材】

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論

【評価方法】

・テスト
 ・ノートの整理状況
 ・出席状況

} を総合した点数による絶対的評価とする。

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論

【授業心得】

私語を慎しみ、ノートをとる。

授 業 科 目 名	歯 科 臨 床 概 論		
担 当 教 員 名	加藤 友一	歯科医師歴 32年	実務経験
	谷 宏	歯科医師歴 55年	実務経験
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 45年	実務経験
	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 23年	実務経験
	笹山 美香	歯科衛生士歴 23年	実務経験
開 講 時 期	1年生 前期		
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

新入生に対して、1・2週目から始まる授業やこれからの学習のためのオリエンテーションを目的として、集中的に組まれた授業です。

各授業科目には共通する専門用語もあり、必要とする基礎知識もあります。

それらを考慮して企画されたこの「歯科臨床概論」授業を受けて、これからの学習の助けとするとともに、学ぶ喜びを思い起こし、授業が楽しみになることを目的とする。

【授業の進め方】

教本・プリントを中心に授業を進める。

【使用教本・教材】

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導
最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
頭蓋模型、歯列模型

【評価方法】

授業毎の実施の小テストと授業態度の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

かならず、事前にシラバスを読み、その日行う授業内容の確認をすること。

授 業 科 目 名	歯科保存学(保存修復学)		
担 当 教 員 名	細川 宗靖	歯科医師歴	14年 実務経験
開 講 時 期	1年生	後期	
授業形態・単位数・時間	講義	10時間 (5回)	

【授業の目的・到達目標】

臨床の中でも比較的高頻度の治療割合を占める保存修復の分野を、教本をベースとし、臨床に即した講義内容により、国家試験をめざすとともに、歯科衛生士に必要な知識の習得を目標とする。

【授業の進め方】

教本に沿って進めていくと同時に、他科目との関連や国家試験を絡めた補足説明を行い、学生と知識の確認をしながら進めていく。

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法

【評価方法】

毎回の授業態度や定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

1年生と言えども、遠い先ではない国家試験を念頭に、常に国家試験を意識し、モチベーションを徐々に高めながら授業に取り組んで欲しい。

授 業 科 目 名	歯科保存学(歯周療法学)		
担 当 教 員 名	姫野 宏	歯科医師歴	49年 実務経験
開 講 時 期	1年生	後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	24時間 (12回)

【授業の目的・到達目標】

・歯周疾患は、齲蝕に並び口腔領域における2大疾患とされており、歯を失う原因の一つとされている。

現在、超高齢社会をたどる日本国内において、8020運動。80歳で20本の歯を残そうという運動に先駆け、歯科医師のもと、歯科衛生士が行う予防処置、歯周病治療はとても重要な役割を果たす。

その中で、歯周病における知識・技術の習得を目指すとともに、一人でも多くの歯周病認定歯科衛生士として活躍できるような歯科衛生士を目指し養成していくことを目標とする。

【授業の進め方】

- ・講義を中心に授業を展開。
- ・技術の習得面においては、演習を挟みスケーラーの構成やシャープニングの実習なども含めて行う。

【使用教本・教材】

- ・教本:最新歯科衛生士教本 歯周病学 (第2版)
- ・スケーラーセット、シャープニング器材など

【評価方法】

- ・日常点(授業態度など)
 - ・小テスト(確認テスト)
 - ・レポート作成
 - ・定期試験
- } を総合した、点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

- ・臨床的な内容も含めて行うので、板書をしっかりと取り、重要な説明はそのつどメモもしくは、ノートをしっかりととりまとめること。

授 業 科 目 名	歯科補綴学（総論）		
担 当 教 員 名	平井 晋	歯科医師歴 27年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

- ・歯の実質欠損や喪失により生じた形態や機能の低下を補綴物で補い、回復するのみではなく、予防するという重要性を理解する。
- ・歯の欠損による障害は身体的障害だけではなく、心理的な障害にも関係があることを理解する。
- ・顎関節の構造と機能を理解する

【授業の進め方】

教本を使う授業と実際の補綴物を見てもらって進める授業を実施

【使用教本・教材】

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科補綴

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

予習・復習を心がけ、しっかりと授業を聞き、わからないことは、質問等を行い、積極的に授業に臨むこと。

年間授業計画

科目名 歯科補綴学(総論)

回数	履修主題	履修内容
1	歯科補綴の概要	補綴治療の目的、クラウンについて
	歯科補綴の概要	ブリッジ、局部義歯、総義歯について
2	補綴歯科治療の基礎知識	歯牙彎曲、基準平面について
	補綴歯科治療の基礎知識	咀嚼、嚥下、発音について
3	補綴歯科治療の基礎知識	下顎位について
	補綴歯科治療の基礎知識	下顎限界運動について
4	補綴歯科治療の基礎知識	顎路、咬合様式について
	歯の欠損に伴う障害と 補綴歯科治療	歯列、咬合の変化と、身体的・心理的障害について
5	補綴装置の種類とその構造	全部被覆冠、一部被覆冠、ポストクラウンについて
	クラウン・ブリッジ治療の実際	前処置、支台歯形成
6	クラウン・ブリッジ治療の実際	支台築造、歯肉圧排
	クラウン・ブリッジ治療の実際	印象採得
7	クラウン・ブリッジ治療の実際	咬合採得、テンポラリークラウン
	クラウン・ブリッジ治療の実際	鑄造(技工操作)、試適、シェードテイキング
8	クラウン・ブリッジ治療の実際	研磨、合着、まとめ

授 業 科 目 名	口腔外科学（総論）		
担 当 教 員 名	山本 栄治	歯科医師歴	18年 実務経験
開 講 時 期	1年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

1. 人体の基本的特徴を理解する。
2. 歯科の特殊性を理解する。
3. 硬組織と軟組織の違いを押さえる
4. 咬合の基本を理解する
5. 外科の基本を理解する
6. 口腔外科とは何かを理解する

【授業の進め方】

講義中心、時々スライドを交えて

【使用教本・教材】

教科書中心に 最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」

【評価方法】

期末試験 + 平常点を総合した点数による絶対的評価とする

【授業心得】

人体に興味を持つこと
常に自他の健康増進について考える事

年間授業計画

科目名 口腔外科学（総論）

回数	履修主題	履修内容
1	口腔外科とは 1	口腔の解剖、組織学の理解
	口腔外科とは 2	口腔外科疾患の概要
2	口腔外科と全身	主な全身疾患と歯科の関係
	口腔外科と歯科衛生士	業務範囲、種類、内容の理解
3	先天異常・変形	唇顎口蓋裂治療の基本的考え方
	外傷・損傷	骨折の分類、治療の原則
4	口腔粘膜疾患	粘膜組織学、病態の基本
	炎症論	炎症の基本的理解
5	菌性炎症	菌性炎症の特殊性、治療原則の理解
	顎関節症	解剖学、機能の理解 疾患の理解
6	嚢胞	嚢胞とは、治療方法
7	腫瘍学 1	腫瘍とは、基本の理解
	腫瘍学 2	治療方法
	神経疾患・歯科麻酔概要	神経の解剖学、脳神経とは、歯科麻酔法概論
8	唾液腺疾患・出血性素因	唾液腺の解剖、血液疾患、出血の理解

授 業 科 目 名	小児歯科学		
担 当 教 員 名	坂口 友朗	歯科医師歴	25年 実務経験
開 講 時 期	1年生	後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

- ・小児歯科では、治療の対象が成長を続ける小児であり、治療においては予防処置～治療～メンテナンスの重要性までと極めて広範囲にわたる。
その中で、小児患者に対する対応や保護者に対する対応（協力）においても治療を進めていくには不可欠なものである。
- 小児歯科学では、乳歯・永久歯の特徴を理解するとともに、成長（発育）・状態・精神面を
考え対応等ができるような知識の向上を目標とする

【授業の進め方】

- ・実際の小児に対する歯科治療のスライドを用い、講義中心に行う。
また、将来、母親となった時に必要な乳幼児との接し方や育て方なども含めて
題材に取り入れ授業を展開する

【使用教本・教材】

- ・最新歯科衛生士教本 小児歯科
- ・臨床における小児患者のスライドやグラフ・表など

【評価方法】

- ・日常点（授業態度など）、定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

- ・予習、復習をかならず行うこと。
- ・授業内の私語、居眠り等は慎むこと。

授 業 科 目 名	歯科材料学		
担 当 教 員 名	山口 一郎	歯科医師歴 27年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

歯科医療において、歯科材料を扱わないことはない。歯科衛生士として、歯科材料の基本的な知識、取り扱い方を学ぶ。

【授業の進め方】

スライドを用い、優しい質問をしながら、みんなで考えるような授業を進める。
 毎回、プリントを配布し、その説明を行う。
 ときどき、小テストを行い、知識の整理を行う。

【使用教本・教材】

新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする

【授業心得】

できるだけ興味を引くように授業を進めていくので、質問等は積極的にして欲しい。

年間授業計画

科目名 歯科材料学

回数	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などの説明
2	歯科材料と歯科衛生士	医療従事者としての人間性を考える
	歯科材料の基礎知識	物理学、化学、生物学の基礎と歯科材料との関係
3	歯科材料の基礎知識	物理学、化学、生物学の基礎と歯科材料との関係
	歯科材料の取り扱い	歯科材料に関わる基本性質
4	歯科材料の取り扱い	歯科材料に関わる基本性質
	歯科材料の取り扱い	シーラント
5	歯科材料の取り扱い	成形歯冠修復用コンポジットレジン
	歯科材料の取り扱い	成形歯冠修復用コンポジットレジン
6	歯科材料の取り扱い	成形歯冠修復用コンポジットレジン
	歯科材料の取り扱い	グラスアイオノマーセメント
7	歯科材料の取り扱い	歯科用アマルガム
	歯科材料の取り扱い	仮封材
8	歯科材料の取り扱い	暫間被覆冠および仮着材
	歯科材料の取り扱い	授業のまとめ

授 業 科 目 名	歯科放射線学		
担 当 教 員 名	迫 健太郎	歯科医師歴	12年 実務経験
開 講 時 期	1年生	前期・後期	
授業形態・単位数・時間	講義 20時間(10回)		

【授業の目的・到達目標】

様々な放射線がある中で主に、口腔領域の診断の際に必要な不可欠なエックス線(X-Ray)について、その発生から性質、撮影方法、エックス線写真となるまでの過程、生体への影響について学び、国家試験で問われる知識ならびに歯科衛生士として必要な知識を理解する。

【授業の進め方】

基本的事項を学んだ後、演習問題、小試験で知識を確認していく。
要所で指名し、質問に答えてもらう。

【使用教本・教材】

- 1) 東 与光、青山 亘、鈴木 信一郎: ORAL RADIOLOGY、日本医事新報社、1987年、第7版
- 2) 全国歯科衛生士教育協議会編集: 新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科放射線学、
医師薬出版株式会社、2002年、第1版8刷
- 3) 全国歯科衛生士教育協議会監修: 最新歯科衛生士教本 歯科放射線、医師薬出版株式会社
2009年、第1版1刷
- 4) 飯久保 正弘、犬童 寛子、香川 豊宏、河合 泰輔、後藤 真一: 歯科衛生士テキスト
わかりやすい歯科放射線学、(株)学建書院、2012年、第2版 なお、授業で主に
使用するのは4)わかりやすい歯科放射線学、(株)学建書院、2012年、第2版である。
プリントを配布し、要点を整理していく。

【評価方法】

二等分法の原理の理解を重要視する。
定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

他の科目同様に臨んで欲しい。最低でも国家試験で問われる知識の習得を望む。

授 業 科 目 名	歯科予防処置法			
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	23年	実務経験
	笹山 美香	歯科衛生士歴	23年	実務経験
	橋本 幸子	歯科衛生士歴	45年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期・後期		
授業形態・単位数・時間	講義・実習	5単位	150時間	

【授業の目的・到達目標】

前期： 歯科予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、口腔の保健管理を目的とした予防的歯石除去を行うための知識・技術・態度を習得する。

後期： 予防的歯石除去の知識・技術及び態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実を図る。

【授業の進め方】

・講義、演習、実習

【使用教本・教材】

・教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論、歯周病学
ペリオドンタルインスツルメンテーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 他

【評価方法】

<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・技術試験 ・小テスト ・レポート課題 ・授業・実習態度 	}	総合した、点数による絶対的評価とする。
--	---	---------------------

【授業心得】

- ・予習・復習は常に心掛ける
- ・歯科予防処置は歯科衛生士の独占業務である。その為に必要な技術の習得は日々の訓練によって獲得できる！訓練を怠らないように！
- ・課題においては、提出期限を厳守とする

授 業 科 目 名	う蝕予防処置			
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	23年	実務経験
	橋本 幸子	歯科衛生士歴	45年	実務経験
	笹山 美香	歯科衛生士歴	23年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期 ・ 後期		
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位	30時間	

【授業の目的・到達目標】

目的： 歯科衛生士として、齲蝕予防処置を行うための知識・技術を身につける。

【授業の進め方】

・講義、演習、実習

【使用教本・教材】

・教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論
 歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 他

【評価方法】

・定期試験
 ・技術試験
 ・小テスト
 ・レポート課題
 ・授業・実習態度

} の点数による絶対的評価

【授業心得】

・予習・復習は常に心掛ける
 ・課題においては、提出期限を厳守とする
 ・う蝕予防を行う、公衆衛生活動に積極的に参加する

授 業 科 目 名	歯科保健指導法			
担 当 教 員 名	橋本 幸子	歯科衛生士歴	45年	実務経験
	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	23年	実務経験
	笹山 美香	歯科衛生士歴	23年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期・後期		
授業形態・単位数・時間	講義・実習	3単位	90時間	

【授業の目的・到達目標】

授業目標

前期 歯科保健指導とは対象者の生活行動を歯科保健行動に変容させることを目的とする。
その目的のため、各分野(清掃法・食事指導など)の指導に必要な幅広い知識と基本的な技術を理解、習得する。

後期 対象者別、疾病別の指導法を理解し、的確に助言・援助できるよう学習する。
小集団指導に対する伝達技術・媒体の作成法を習得し、症例別に立案・作成し発表できることを目標とする。

【授業の進め方】

講義、演習、実習

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論
最新歯科衛生士教本 保健情報統計学
最新歯科衛生士教本 栄養と代謝
その他プリント

【評価方法】

- ・授業態度
- ・課題、レポート
- ・定期試験

以上を総合し、点数による絶対的評価とする

【授業心得】

- ・予習復習は常に行うようにする
 - ・レポートの提出日は必ず守ること
- 保健指導は対象者によって指導の内容が違うので、数学のように画一的な答えは出なく、すべての科目の内容を把握しないと、適切な指導はできません。
全教科の集大成が歯科保健指導と考えて学習すること。

年間授業計画

科目名 歯科保健指導法

回数	履修主題	履修内容
1回	I編 総論 1章 歯科保健指導論の概要	歯科衛生士の法的な位置づけ 歯科保健指導の定義・健康の定義 健康戦略の概要 3つの予防レベルと5つの手段
2回	II編 歯科保健指導の基礎知識 1章 口腔の基礎知識 2章 齲蝕と歯周病の基礎知識	正常な口腔の構成要素 歯周組織の構成要素 歯冠および歯根の形態 口腔の機能について 口腔内の付着物・沈着物 プラーク・歯石の成分や分類
3回	II編 歯科保健指導の基礎知識 2章 齲蝕と歯周病の基礎知識 3章 歯科保健指導実施のための基礎知識	齲蝕の分類および原因とプロセス 歯周病の分類および原因とプロセス 行動変容のステップ 行動変容の理論を健康信念モデル
4回	II編 歯科保健指導の基礎知識 3章 歯科保健指導実施のための基礎知識	食生活・食習慣の背景 現代における問題点 栄養素とその働き 食品と齲蝕の関連性 糖類と齲蝕の関連性
5回	II編 歯科保健指導の基礎知識 3章 歯科保健指導実施のための基礎知識	咀嚼の働きとその効用 齲蝕予防のための食品摂取方法 食生活指導の方法
6回	III編 歯科保健指導各論 1章 歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の概要 歯科衛生アセスメントについて 歯科衛生診断について
7回	III編 歯科保健指導各論 1章 歯科衛生過程の進め方	歯科衛生計画立案について 歯科衛生介入と業務記録について 歯科衛生評価について
8回	III編 歯科保健指導各論 2章 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理 ①患者からの情報収集	情報収集の目的や得られる情報 医療面接の目的 口腔内の観察項目とポイント 歯科衛生介入に関連する検査方法
9回	III編 歯科保健指導各論 2章 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理 ①患者からの情報収集	情報収集の目的や得られる情報 医療面接の目的 初診時間診票を作成する 保健指導時間診票を作成する
10回	III編 歯科保健指導各論 2章 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理 ③分析のためのデータ 1,指数	口腔清掃や歯周疾患の指数 プラーク・歯石の指数・・・PCR、OHI、OHI-S、PI、I 歯周疾患の指数・・・PMA、PI、PDI、GI、CPI う蝕の指数・・・DMF その他・・・CFI

科目名 歯科保健指導法

回数	履修主題	履修内容
11回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 2章歯科衛生アセスメントの ための情報収集と情報処理 ③分析のためのデータ 1,指数	OHI、OHI-S、オレリーのPCRの計算方法 PMA、PI、CPIの算出方法 OHI、OHI-S、オレリーのPCRの計算をする PMA、PI、CPIの算出を試みる
12回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 2章歯科衛生アセスメントの ための情報収集と情報処理 ③分析のためのデータ 1,指数	OHI、OHI-S、オレリーのPCRの計算方法を再確認する PMA、PI、CPIの算出方法を再確認する OHI、OHI-S、オレリーのPCRの計算を確認する PMA、PI、CPIの算出を確認してみる 確認テスト
13回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 3章歯科衛生士介入の ための歯科保健指導 ⑥口腔清掃法	歯ブラシの基礎知識を理解する・歯ブラシの名称 ブラッシング法を理解する 毛先を使ったブラッシング法 (適応症・長所・短所・為害作用) 各種歯ブラシを記録する 口腔ケアグッズ配布
13回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 3章歯科衛生士介入の ための歯科保健指導 ⑥口腔清掃法	歯ブラシの基礎知識を理解する・歯ブラシの名称 ブラッシング法を理解する 脇腹を使ったブラッシング法 (適応症・長所・短所・為害作用) 各種歯ブラシを記録する
14回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 3章歯科衛生士介入の ための歯科保健指導 ⑥口腔清掃法	歯磨剤の概要 基本成分 市販された歯磨剤の基本成分 各種歯磨剤を記録してみる
15回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 3章歯科衛生士介入の ための歯科保健指導 ⑥口腔清掃法	歯磨剤の概要 薬用成分 市販された歯磨剤の薬用成分 各種歯磨剤を記録してみる
16回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 3章歯科衛生士介入の ための歯科保健指導 ⑥口腔清掃法	補助用具について デンタルフロス、歯間ブラシ、タフトブラシ、義歯ブラシ等 洗口剤について 主な成分と効能・効果
17回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 3章歯科衛生士介入の ための歯科保健指導 ⑥口腔清掃法	復習 歯磨剤・洗口剤・その他の清掃法 確認テスト
18・ 19回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 2章歯科衛生アセスメントの ための情報収集と情報処理 2. 口腔内の情報収集 実習	口腔内の付着物・沈着物の確認 3クール×25分 (歯・粘膜・舌・唾液腺・付着物・沈着物) プラークの染色前と染色後の確認

科目名 歯科保健指導法

回数	履修主題	履修内容
20回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 3章歯科衛生士介入のための歯科保健指導 ⑥口腔清掃法	症例別に口腔清掃法を検討する 定期試験の解説
21回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 3章歯科衛生士介入のための歯科保健指導 ⑥口腔清掃法	音波ブラシについて 音波ブラシを体験してみる
22回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 3章歯科衛生士介入のための歯科保健指導 ⑥口腔清掃法	義歯の清掃について理解する
23回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 3章歯科衛生士介入のための歯科保健指導 ⑦食生活指導（栄養指導）の進め方 ⑧喫煙者に対する指導	食生活指導の方法 喫煙者に対する指導の方法 喫煙についてのアンケートをとる
24回	Ⅳ編 歯科衛生活動の展開 1章ライフステージにおける歯科衛生介入 ①妊産婦期	ライフステージの区分と生涯を通じた歯科保健対策の概要 妊産婦期の特徴と望ましい歯科保健行動 胎児の口腔の発達について 妊産婦の期の必要な栄養素とその摂取基準
25回	Ⅳ編 歯科衛生活動の展開 1章ライフステージにおける歯科衛生介入 ②新生児期・乳児期	新生児期・乳幼児期の特徴と望ましい歯科保健行動 新生児期・乳幼児期のプロフェッショナルケアとセルフケアの目標 離乳までの栄養摂取について 離乳期の食生活指導
26回	Ⅳ編 歯科衛生活動の展開 1章ライフステージにおける歯科衛生介入 ③幼児期	幼児期・学齢期の特徴と望ましい歯科保健行動 幼児期・学齢期のプロフェッショナルケアとセルフケアの目標 幼児期の食事摂取基準と間食について
27回	Ⅲ編 歯科保健指導各論 2章歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理 ③分析のためのデータ	DMFの各計算方法を再確認する
28回	Ⅳ編 歯科衛生活動の展開 1章ライフステージにおける歯科衛生介入 ④学齢期	学齢期における食育の重要性を理解し食生活指導の実施

科目名 歯科保健指導法

回数	履修主題	履修内容
29回	IV編 歯科衛生活動の展開 1章ライフステージにおける 歯科衛生介入 ⑤青年期 ⑥成人期	青年期・成人期の特徴と望ましい歯科保健行動 青年期・成人期のプロフェッショナルケアとセルフケアの目標 青年期の食生活の特徴と栄養について 成人期の食事摂取基準と肥満・生活習慣病の予防について
30回	IV編 歯科衛生活動の展開 1章ライフステージにおける 歯科衛生介入 ⑦老年期	老年期の特徴と望ましい歯科保健行動 老年期のプロフェッショナルケアとセルフケアの目標 老年期における食生活の変化について 老年期の食事摂取基準と不足しがちな栄養素
31回	V編 臨床・臨地実習 1章相互実習（臨床予備実習） ⑦ブラッシング指導実習	簡単なブラッシング指導相互実習
32回	IV編 歯科衛生活動の展開 1章ライフステージにおける 歯科衛生介入 ⑧要介護高齢者	要介護高齢者の特徴と望ましい歯科保健行動 プロフェッショナルケアと介護者による口腔ケアの目標 要介護高齢者の食生活の特徴と栄養について 要介護高齢者の摂食嚥下機能と食生活指導の関連
33回	IV編 歯科衛生活動の展開 1章ライフステージにおける 歯科衛生介入 ⑨障害者	障害者の分類とそれぞれの特徴 障害者の口腔の特徴と歯科的問題 プロフェッショナルケアと介護者による口腔ケアの目標 障害者の食生活の特徴と栄養について
34回	IV編 歯科衛生活動の展開 2章臨床における歯科衛生活動 ①う蝕（小児） ②歯周病（成人） ③障害者	臨床例をとおして、歯科衛生士の業務 齲蝕リスクが高い小児に対する歯科保健指導 歯周病患者に対する歯科保健指導 障害者に対する歯科保健指導
35・ 36回	V編 臨床・臨地実習 1章相互実習（臨床予備実習） ⑦ブラッシング指導実習	簡単なブラッシング指導相互実習
37・ 38回	V編 臨床・臨地実習 2章地域歯科保健活動 －臨床実習の実践例－ ①地域歯科保健活動における 健康教育 ②地域歯科保健活動の実践例	地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割 集団・小学校に対する伝達方法・実践例 介護予防通所サービスの実践例 小集団指導法の特徴 話の組み立て、媒体の効果 対象別の小集団指導法の考え方 小集団用台本作成法実習

科目名 歯科保健指導法

回数	修 主 題	履 修 内 容
39 ・40回	V編 臨床・臨地実習 1章相互実習（臨床予備実習） ⑦ブラッシング指導実習	歯肉を読む ブラッシング指導相互実習
41回	V編 臨床・臨地実習 2章地域歯科保健活動 －臨床実習の実践例－ ①地域歯科保健活動における 健康教育 ②地域歯科保健活動の実践例	小集団対象別歯科保健指導実習の準備
42回	後期定期試験の説明 1年間の復習	
43・ 44回	V編 臨床・臨地実習 2章地域歯科保健活動 －臨床実習の実践例－ ①地域歯科保健活動における 健康教育 ②地域歯科保健活動の実践例	小集団対象別歯科保健指導実習の準備 *小集団対象別歯科保健指導実習 グループ毎に発表
45回	V編 臨床・臨地実習 1章相互実習（臨床予備実習） ⑦ブラッシング指導実習	簡単なブラッシング指導相互実習

授 業 科 目 名	歯科診療補助法			
担 当 教 員 名	笹山 美香	歯科衛生士歴	23年	実務経験
	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	23年	実務経験
	橋本 幸子	歯科衛生士歴	45年	実務経験
開 講 時 期	1年生	前期・後期		
授業形態・単位数・時間	講義・実習	7単位	210時間	

【授業の目的・到達目標】

授業目標

【前期】 歯科診療補助を行う際に必要な全般的な知識・技術を理解するにあたり、術者との共同動作や対面行為の実際について習得させる

【後期】 歯科診療補助に必要な基礎的技術のうち、各分野における処置別歯科診療補助法の実際として、器材のセッティング、処置の流れに沿った的確な介助法、処置後のメンテナンス、器材の後始末について習得させる

【授業の進め方】

講義、実習

【使用教本・教材】

最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論

新歯科衛生士教本 歯科材料の知識と取り扱い

新歯科衛生士教本 歯科器械の知識と取り扱い

最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法

最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔

【評価方法】

- 1、授業態度
- 2、実技試験
- 3、課題レポート
- 4、定期試験

以上のものより、点数による絶対的評価とする

【授業心得】

予習復習は常に行うようにする

レポートの提出日は必ず守ること

実技に関しては常に訓練を怠らないこと

年間授業計画

科目名 歯科診療補助法

回数	履修主題	履修内容
1～10回	1章 歯科診療補助総論 1、歯科診療補助の意義 2、歯科衛生士法の位置付け 2章医療安全と感染予防 3章歯科診療室における共同動作 1) 歯科診療室の基礎知識 2) 共同動作の基本	歯科衛生士と歯科助手の業務内容の違いがわかる。 歯科診療補助と歯科診療介助の違いがわかる。 患者対応とその心構え、基礎的知識、技術など歯科衛生士が果すべき役割について学ぶ。 共同動作のルールと位置と姿勢など基本的知識を習得する。 診療室内の歯科用ユニット歯科用機器の各部の名称及び構造を理解する。 診療の前後の清掃と整備法を理解する。
11～20回	2章医療安全と感染予防 3章歯科診療室における共同動作 1) 歯科診療室の基礎知識 2) 共同動作の基本	衛生材料の名称と用途を理解する。 消毒液を希釈し、目的にあった消毒液を作る事ができる。 手指消毒方法を理解し、適切に手指消毒ができる。 バキューム操作の目的、禁忌部位、口腔に貯留した水等の吸引、挿入部位スリーウェイシリンジの操作法、洗浄の仕方を学ぶ。 ライティングの条件、目的、焦点、距離等について学ぶ。
21～30回	4章主要歯科材料の種類と取扱い 1、歯科材料の基礎知識 2、歯科材料と診療の流れ 3、印象材 4、模型用材料	印象材の種類と用途、操作方法を理解する。 各種印象材の取扱いを理解する 各種印象材の練和ができる 硬化した印象材の廃棄と清掃方法を理解する 石膏の種類と用途、所要性質を理解する 石膏の取扱いができる
31～35回	3章歯科診療室における共同動作 1) 歯科診療室の基礎知識 2) 共同動作の基本 3) ラバーダム防湿の基礎知識 4) ラバーダム防湿の手順 5) 臨床における留意点	ラバーダム防湿用器具及び材料の名称、用途を理解する。 ラバーダムクランプの番号、形態、特徴と使用する部位との関係を学ぶ。 マネキンを使用してラバーダム防湿をおこなう 口腔内にラバーダム防湿、1歯露出を行って見る。 口腔内にラバーダム防湿、1歯露出を評価する。 口腔内にラバーダム防湿、2歯露出を行ってみる。
36～55回	4章主要歯科材料の種類と取扱い 6、成型歯冠修復 1) コンポジットレジン修復の取扱い 2) グラスアイオノマー修復 3) アマルガム 8 歯肉排除用薬剤	コンポジットレジン、アイオノマーセメント、アマルガムを取り扱うことができる。 歯間離開・隔壁をする事ができる。 CR、AM修復に使用する器材の名称と使用目的が言える。 使用器材を正確に受け渡すことができる。 メタルインレー修復・装着のトレーセティングができる。 術式にそって使用器材の受け渡しができる。
56～75回	4章主要歯科材料の種類と取扱い 7仮封材 歯科器械の知識と取扱い Ⅲ編2章V 歯内療法用器材 保存修復学・歯内療法学	仮封材の目的 歯内療法に使用する器材の名称と使用目的が言える。 使用器材を正確に受け渡すことができる。 歯髄復覆(間接・直接)のトレーセティングができる。 歯髄切断法のトレーセティングができる 麻酔抜髄・根管充填法のトレーセティングができる

科目名 歯科診療補助法

回数	履修主題	履修内容
76～85回	<p>3章 歯科診療室における共同動作</p> <p>3 その他の設備3) X線撮影装置</p> <p>歯科器械の知識と取扱い</p> <p>Ⅱ 編Ⅷ 口腔内撮影用器材</p> <p>1 口腔内撮影用カメラ</p> <p>2 口角鉤</p> <p>3 口腔内ミラー</p>	<p>口腔内写真用カメラの取り扱いがわかる。</p> <p>口腔内写真を撮影するときに使用する器材を準備できる。</p> <p>口腔内写真の撮影方法がわかる。</p> <p>フィルムの管理・保管ができる</p> <p>各種X線の取扱いがわかる</p> <p>前準備ができる。</p> <p>保管ができる</p>
第86～ 100回	<p>5章 全身疾患をもつ患者と診療補助</p> <p>口腔外科・歯科麻酔</p> <p>10章 口腔外科診療の実際</p>	<p>清掃・消毒・麻酔、縫合、止血などに必要な器材・薬剤を準備できる。</p> <p>外科用器具を適切な受け渡しを理解する。</p> <p>各種口腔外科小手術の違いを理解する。</p> <p>口腔外科小手術に使用する器材の名称や使用目的を理解する。</p>
第101～ 105回	<p>歯科材料の知識と取扱い</p> <p>Ⅱ 編6章 暫間被覆冠および仮着材</p> <p>Ⅱ 暫間被覆材・取扱い</p> <p>Ⅲ 編人工歯および床用材料</p> <p>Ⅲ リライニングとリベース</p>	<p>暫間被覆冠の目的がわかる</p> <p>暫間被覆冠の器具・器材の名称と使用目的がわかる</p> <p>暫間被覆冠の器具・器材を取り扱うことができる。</p> <p>リベース・リライニングの違いがわかる</p> <p>リベース材・テツィシュコンディショナーの取り扱いができる</p> <p>リベース材・テツィシュコンディショナー後のカウンセリングができる</p>